



まだ着られるのに廃棄される衣服

▼ 目次【VOL.140】

- 2-3 衣服ロス問題
- 4-5 加盟団体インタビュー
- 6 倶楽部FUNN報告
- 7 新職員・インターン紹介
- 8 イベント情報等

～世界の問題に目を向ける～

今回の国際協力ニュースでは、“世界で起こっている問題を知り自分ごととして捉え関心を持ち続ける”をテーマに作成しました。衣服ロス問題を通してみなさんが今日から自分に何ができるか、考えるきっかけになれば幸いです。



衣服ロス問題とは

みなさんは衣服ロス問題を知っていますか？まだ食べられる食品が捨てられてしまう「食品ロス」が広く認知されてきた一方、まだ着られるにもかかわらず廃棄されてしまうアパレル産業の社会問題「衣服ロス」はそれほど社会に浸透していません。しかし、世界では毎秒トラック1台分もの衣類が焼却、あるいは埋め立て処分されているのが現状です。衣服ロス問題、その原因や対策、私たちにできることを考えてみましょう！

衣服ロスの何が問題？

衣服ロス問題とは、まだ着られるにもかかわらず大量の衣服が廃棄されており、様々な環境問題や経済的損失に繋がっていることを指します。日本だけでも新品の衣服が年間10億着以上も捨てられています*1。問題は、何よりも地球環境に対する負荷が大きいことです。アパレル産業が排出する二酸化炭素の量は、石油産業に続き第2位と言われており、世界全体の二酸化炭素排出量のうち実に8%以上がアパレル産業からの排出とされています*2。アパレル産業は原材料の調達、生地・衣服の製造、そして輸送から廃棄に至るまで、それぞれの段階で大量に二酸化炭素を排出し、地球温暖化に拍車をかけていると言われています。



【上】まだ着られるにもかかわらず廃棄される大量の衣服

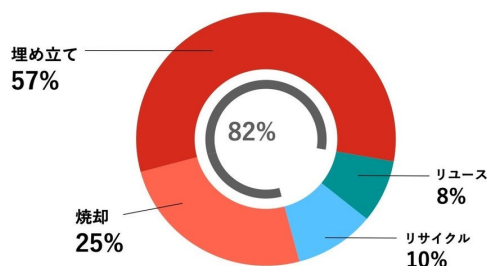
また、近年は世界中で水不足の問題が叫ばれています。例えば、原材料のコットンを栽培するには大量の水が必要になります。Tシャツ一枚を作るのに、浴槽約11杯分の水が必要と言われています*3。このように、アパレル産業は水不足の問題にも関係しているのです。環境負荷の大きいアパレル産業ですが、それにもかかわらず大量の衣服を毎年処分しています。もちろん焼却処分をすれば大量の二酸化炭素を排出するため、アパレル産業は様々な場面で環境破壊、ひいては気候変動の問題に関わっているのです。

* 1,2: <https://www.kantahara.com/entry/cloth-loss>
* 3: https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

衣服ロスの原因は？

近年ファストファッションが普及したことも、衣服ロスにつながっています。安価な服を大量生産し販売しますが、売れ残った分はたとえ新品だとしても処分されます*4。また、アパレル産業独特の構造にも原因があります。アパレル産業では、企画から販売までの生産期間の長さに比べて、実際に販売する期間は短いという構造があります。近年はSNSやマスメディアの影響もあり、衣服の流行がものすごい勢いで変化しているため、商品の入れ替えが年々早くなっています。そのため、需要の予測が難しく、とりあえず大量に生産し売れ残ったら処分するという構造ができてしまっているのです*5。アパレル産業も売れ残った服をセールで裁こうと努力しますが、流行が終われば服は売れにくくなりますし、在庫を倉庫で管理していたら維持費もかかります。そのため、たとえ新品の衣服でも処分しなければならず衣服ロスが発生しているのです。

不要になった衣服は、合計**82%**のものが
焼却と埋め立てで処分される



※Pulse of the Fashion Industry Report 2017

【上】地球環境に負荷のかかる焼却と埋め立てが処分の8割以上を占める

私たちが取り組める対策は？

アパレル産業もこの問題を認識し取り組みを始めていますが、解決は決して簡単なことではありません。一人ひとりの意識と行動を変えることが、

* 4: <https://c-fine.jp/magazine/sustainability/>
* 5: <https://note.com/forfashionfuture/n/n6482f179a9a9>

衣服ロス問題の解決に繋がります。私たちにできることとして、衣服ロス問題の対策を二つ紹介します。

① 一着を大切にする (リデュース)

ファストファッションにより、衣服は誰の手にも届きやすくなりました。2014年に消費者が購入した衣類は、2000年に比べて60%も増加したという報告もあります。その一方、製造された衣類の85%が毎年ごみとして処分されています*1。衣服ロスの問題を解決するためには、消費者一人ひとりが服一着を大切に使うという意識を持つことが何よりも大切です。今自分の手元にある衣服をできる限り長く、大切に使い続けましょう。

② まだ着られる衣服はリユースやリサイクルへ

二つ目はリユース&リサイクルです。まだ着られる衣服は知人に譲ったり、リサイクル会社で買い取ってもらうなどしましょう。最近ならメルカリなどのアプリを使って、欲しい人に簡単に売ることができます。もし自宅に全然着ない衣服があるなら、処分に回すのではなく、そういったリユースに回してみましょう。

FUNNの加盟団体には、東南アジアのクラフトを取り扱っているところもあります。アジアの村々では織物や刺しゅう、パッチワークなど素晴らしい手工芸品が作られています。それは母から子に技が伝わり、一枚の布を何か月もかけて織り上げ、一生もの、または次の世代にも受け継がれます。模様にはいろいろな意味があり、文化伝承でもあるのです。ファストファッションと対極のスローファッションだと思いませんか？クラフトに触れることも、私たちが生活を見直すきっかけになりそうですね。

12 つくる責任
つかう責任



【左】SDGsの12番目
「つくる責任・つかう責任」

* 1: <https://www.kantahara.com/entry/cloth-loss>



多文化共生コラム ①

今回から数回に渡り「多文化共生コラム」と題して、昨今話題になっている多文化共生社会について紹介していきます。第一回目は、8月からFUNNでインターンシップをしている岡野さんに記事を書いていただきました。

『近所のコンビニ働く店員さんが。。。』

総務省による多文化共生の定義は、『国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと』です。つまり、日本人も外国人も地域の一員として共に認め合い、互いに力を合わせながら社会を発展させていこうという考え方です。文部科学省によると、日本には約28万人もの留学生がいるそうです。実際にコンビニで働く外国人店員さんに注目してみると、彼ら彼女らの多くが私費留学生なのだそうです。日本語の勉強とアルバイトを両立させる彼ら彼女らはまさに文武両道といえます。しかし一方で、多額の借金を抱えたり、悪徳なブローカー業者に騙されたりして苦しんでいる留学生もいるそうです。以前よりも留学生の存在が身近になってきた日本において、彼ら彼女らの背景や現状に興味を持つことは、多文化共生の第一歩になりうると考えます。(インターン岡野)





■(一社)ミドリゼーションプロジェクト

Q.団体設立の経緯を教えてください

A. 地球の茶色部分である荒廃地・乾燥地を緑化で緑いっぱいにして、とミドリゼーションプロジェクトと名付けて実際に植樹活動を始めたのが2016年です。まずはJICAの緑地化専門家の勧めで、3ヶ月間イスラエルでの緑地化活動の見学に行きました。その際、イスラエルとヨルダンの国境になっているヨルダン渓谷で向こう側を見ている際、アラブ・イスラム・王国などなどすべてのキーワードが道であるヨルダンという国に興味を惹かれました。そこで、世界でも特に乾燥・荒廃地化してしまったヨルダンへ行き、色々なご縁が重なりこの地に住んで緑化事業をすることに決めました。現地の人たちと膝を突き合わせてお付き合いを重ねて少しずつ信頼を得ていく中、同じように日本からも社会的な信用と応援をいただくことが必要となり2018年に法人として登録しました。



【上】在来種の苗木

【下】植樹の様子

Q.これまでの活動を教えてください

A. 団体の活動目的は、緑化活動を通じてより良

い生活環境を整え、自分たちの未来の社会をデザインすることです。具体的には、生態系の修復、森の再生、生物多様性の回復、土壌の改善、土砂流出防止など防災対策、自然資源の創出、水源保全、また都市機能に必要な精神的休息や癒し効果の提供など、森づくりがもたらす効果を最大限に活用します。そして健康的で持続性の高い責任ある社会をじっくりと作っていくお手伝いをする、というのがねらいです。これらの目的を達成するために、ヨルダンに5年住み、宗教・階層・部族・地域・業種など垣根を越えながら、今までに10か所以上で1600本以上の木や低木を植えてきました。2018年から、持続可能な生態系のためには、在来種（パレスチナオークなど土地本来の木）による緑化が重要だと気づきました。そこで、アラブ諸国初となる「宮脇方式」*導入による植林活動へとフォーカスしていきます。はじめは農業省森林局と王立植物園から在来種の苗木の提供を受けていました。同時に、ヨルダンでは在来種の種集めと苗木作りが一般的に広く行われていないことを知りました。今では、自分たちで「ヨルダンの在来種リカバリーアクション」と名付けて、絶滅危惧種などの育樹も積極的に行っています。この頃から、ヨルダンにある都市緑化のリサーチスタジオと協力体制をもって進めていくようになりました。地元の人々のネットワークのおかげで、都市緑化の分野を中心に色々な人達から少しずつ活動について知ってもらえるようになりました。このような活動が評価され、ドイツ政府の海外開発機構であるGIZサポートのもと、アンマン市行政などの公的機関とも一緒にアンマン市東部のパブリックスペースに2つの森を作りました。現在では40種を超える苗木の生産体制ができ、政府や



加盟団体インタビュー

農業省森林局に種の提供も行っています。植林活動の他には、緑化の重要性を広く知ってもらおうと色々な場所で講演会を開催したり、緑化でとても大切な良い土壌作りの技術を広めるため農場や村落などでワークショップを行ってきました。



【上】土壌作りワークショップの様子

【下】行政やドイツ政府と協力して活動



Q.FUNNに加盟するメリットを教えてください

A. 原田前事務局長からは、色々なアドバイスをいただいていた。人に対する見方や接し方についてもお話いただきました。FUNN加盟団体との懇親の機会を得ることはできましたが、実際にそれがミドリゼーションの活動に結びついているかは不明です。また、これまでにFUNNから様々な助成金を紹介してもらいましたが、それらを獲得するための実務サポートは残念ながらありません。

Q.今後の活動予定を教えてください

A. ミドリゼーションプロジェクトがヨルダンでも少しずつ知ってもらえるようになり、多くの方から種集めや苗木作りのボランティアをしないと



お声かけをもらいます。今後は、このようなボランティアの中から一緒に働く仲間が作れるかを考えていきたいと思っています。そして、その流れをどのように教育的な資金集めの形にしていくかも課題です。また、ミドリゼーションプロジェクトの活動をPR・広報する人材や、決算や報告書などの書類作成をきちんとできる人材が必要です。そのためには、組織を運営し人を雇えるだけの資金が必要となります。今後も植樹活動を通じて、広く世間から認知され、多くの協力者を得ることでこれらの人材を獲得できるように努めていきたいと思っています。将来的には、都市緑地化を中心にヨルダンだけでなく、広くアラブ諸国にも進出しグローバルな問題解決をアラブ地域で展開していくことも中・長期の目標です。



【上】植樹に参加したボランティアとドイツ政府の人々

【下】種集めを行うボランティア



* 宮脇方式

宮脇方式とは横浜国立大学名誉教授、生態学者の宮脇昭氏が1970年代に生み出した森林再生のための植樹方式。その土地本来の植物を使って自立する森をつくることで自然本来の姿に戻そう、というのが宮脇の提唱する森づくり手法。



倶楽部FUNN6月・8月報告

倶楽部FUNNを6月11日と8月6日にZoomで開催し、約20名ずつの参加がありました。今回はどちらも在留外国人の方から話が聞け、8月は多文化共生ワークショップもあり盛りだくさんな内容でした！

■ 6月

発表者：カナダ人ALT
ダニエールさん



◆ 発表内容 ◆

ダニエールさんは、福岡県北九州市で2017年から外国語指導助手（ALT: Assistant Language Teacher）として中学校で働いています。ALTの役割は、英語の授業を学生にとって楽しいものにするため、様々なアクティビティを取り入れることです。ダニエールさんは、英語でコミュニケーションを取る楽しさを学生に実感してもらえるように、積極的に英語で話しかけたり、ゲームを使って英語学習をより楽しいものにする工夫をしています。しかし、残念なことに日本の英語学習は文法や読解が中心で、学生にとっても英語の授業は受験科目の一つという認識が一般的です。また、「どうして多くの日本人は英語が苦手と思っているか」という質問に対し、ダニエールさんが日本で働く中で気づいた点を共有してくれました。参加者の多くから、学生時代にダニエールさんのような先生から英語を教わりたかったというお褒めの声をいただきました。

■ 8月

発表者：ベトナム人技能実習生
ミーレさん



◆ 発表内容 ◆

福岡県北九州市で、技能実習生として働くベトナム出身のミーレさん。2017年の来日当初は、技能実習生として日本の会社で働くことへの期待や不安がありました。また、言語や文化の違いにより職場でも多くの困難に直面しました。ミーレさんはそのような困難を、日本語能力の向上と異文化を受け入れ順応することで克服していきました。ミーレさんのお話に加え、JICAデスク福岡の鬼丸武士さんによる「多文化共生ワークショップ」も開催しました。多文化共生にはどのような姿勢が必要であるのかについてグループで意見を出し合い、その過程で、私たちが当たり前だと思い込んでしまっていることにも目を向けることができました。インターン生からは、「受動的にお話を聞くだけでなく、初対面かつ年齢も背景も異なる仲間たちと協同し意見を発表する経験ができ、結果的に自分の殻を破ることができた」との感想をいただきました。

☆ 新スタッフ・インターン紹介 ☆

FUNNではこの夏3名のインターンを受け入れています。コロナ禍であまり事務所に来てもらえないのですが、リモートでがんばってくれています。財務担当山田さんの後任・加藤綾乃さんもよろしく!



【インターン】
岡野 有亜 さん

福岡女子大学

◎ FUNNでの思い出は (2021年8月～9月)

FUNNでインターンを始めてから半月、国際的な問題を身近に捉え、自分ごととして考えるということの重要性をひしひしと感じました。特に私は、倶楽部FUNNにおいて技能実習生の実体験を聞いたり、JICAの方によるワークショップを体験しファシリテーターを務めたりしたことで、「多文化共生」について以前よりも関心を抱くようになりました。



【インターン】
吉村 宥和 さん

九州大学

◎ FUNNでの思い出は (2021年8月～9月)

私は、8月の活動としてパンフレットの英訳、イベントの調査を行いました。イベントの調査では、高校生が主体的に国際分野について試行錯誤して、刺激を受けました。また、実際に社会で活躍されている方々と働くという貴重な経験は私にとってとても新鮮なものでした。本格的に活動する9月、自分の知らない世界をもっとたくさん見て学びを得たいと思っています。



【インターン】
近藤 菜美希 さん

九州大学

◎ FUNNでの思い出は (2021年8月～9月)

8月のFUNNでのインターン活動では、オンラインイベントのファシリテーターを経験しました。これまでは参加する側でしたが、ファシリテーターとしてグループワークを進め、またFUNNの紹介パンフレットの英語版作成にも携わらせて頂きました。活動を通じて国際問題に関する知識を得て、それに対する自身の考えを膨らませることができました。



【新スタッフ】
加藤 綾乃 さん

◎ 入職のきっかけは

9月からFUNNの職員となりました、加藤と申します。小学校の授業で「世界の貧困について」を学んで以来、国際協力の仕事につきたいと考えていました。東京で政府間での支援に携わる仕事をしていましたが、地元の福岡で、民間ベースでの支援についても学び携わりたくFUNNに応募いたしました。

◎ FUNNでの担当は

FUNNでは主に、経理や総務、企画運営を担当いたします。国際都市としても発展しつつあるここ福岡で、少しでも平和づくりに貢献できればと考えています。これからどうぞよろしくお願いいたします!



外務省NGO相談員活動レポート

令和3年度、NGO福岡ネットワークは外務省NGO相談員を受託しております。数多く寄せられる相談のなかからピックアップし、レポートいたします。



7月1日 九州各県のJICA推進員にNGO相談員の紹介を行いました

7月1日に北九州市にあるJICA九州センターにて行われた国際協力推進員連絡会議に参加させていただきました。国際協力推進員は、JICAから配属された元青年海外協力隊員の方で、担当の県で国際協力の理解促進を広げるために活動されています。以前からFUNNは九州各県の国際協力推進員と連携して活動を行っており、今回の会議で担当地域でのNGO相談員の紹介のお願いや、今後の連携について意見交換を行いました。

ご寄付をいただきました

宗教法人真如苑様より今年度も引き続きご寄付をいただきました。長年にわたりご寄付を賜り心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

NGO福岡ネットワークは宗教法人真如苑の支援により【九州地域NGO活動助成金】の事業を行なっています。(2014年～2021年)

FUNNネットワーク加盟団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (特活) エスペランサ
- * NGO Earth for Children
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 国際協力NGO NESTEP
- * ネパール歯科医療協会(ADCN)
- * 芭蕉繊維研究会
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * モザンビークのいのちをつなぐ会



ネットワーク加盟団体イベントお知らせ

第17回 アフリカの希望チャリティーコンサート

<後援: NPO法人 エスペランサ>

- 日時: 10月24日 (日) 14:00~開演
- 場所: 平塚川添遺跡公園 (福岡県朝倉市平塚444-4)
- 申し込み方法: TEL 080-3948-6963
または 0946-24-9263
- 参加費: 一般 1,000円/小学生 500円
(当日券各1,200円/700円) ※未就学児無料

インドネシアカルチャーディ2021

“Roemah Buddhayah”

<NPO法人 トウマンハティふくおか>

- 感染防止に十分配慮しながら開催決定！
見どころは留学生たちによる寸劇。
- 日時: 10月23日 (土) 12:00~13:30
14:30~16:00
 - 場所: 福岡アジア美術館8階 あじびホール
 - 参加人数(予定)/100名 (各50名×2部構成)
- 詳細はNPO法人トウマンハティふくおか弥栄(みえ)まで。 miechika01@gmail.com

NGO福岡ネットワーク **FUNN**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内
TEL/FAX : 092-405-9870 Email: funn@ngofukuoka.net URL: https://ngofukuoka.net/

◆◇NGO相談を受け付けています(外務省委嘱)◆◇

* 営業時間: 火~土 13:00~18:00 * 日・月・祝・・・休み

※専用駐車場がありませんので、自動車での来所はご遠慮ください。